

鉢伏山・氷ノ山

日程：2013年05月25日(土)～2013年05月26日(日)

メンバー：23人

天候：晴れ

利用交通機関：宝塚駅前より 貸し切りバスにて往復

行程およびコースタイム

1日目

JR宝塚駅前 8:15
イオン和田山店 10:00
ハチ高原スキー場 11:40 (山菜採り)
氷ノ山国際スキー場 (キャンプ地) 13:50
慰霊碑にお参り 14:30～16:00
宴会? 16:00～??

2日目

起床・朝食準備 4:30～
—— (GPSログ開始) ——
テント場 出発 6:00 (氷ノ山山頂へ)
親水公園 (登山口) 6:40
布滝 7:00
地藏堂 7:40
木地屋跡 7:50
氷ノ山越 8:40
ブナ原生林 8:55
仙谷口 9:25
こしき岩 9:45
氷ノ山 山頂 10:05 (大休憩)
東尾根取付 10:35
神大ヒュッテ 10:55
ドウダンツツジ群生地 11:35
東尾根登山口 12:10
キャンプ場 12:15
—— (GPSログ終了) ——
キャンプ場発 13:00
立ち寄り温泉「天女の湯」14:00～15:30
JR宝塚駅前 解散 18:15

コース状況

今回の山行は、東尾根コース (山頂ピストン) と氷ノ山一周コースに分かれて登山した。
我々は、一周コースに参加。総勢11人で、福定親水公園登山口から山頂をめざす。かいちょ～は、テント番。

親水公園登山口にて、登山ポスト投函。

コースは明確だが、雪解けの跡で登山道は多少荒れており、石がごろごろしていた。

道標は整備されており、避難小屋など、休憩場所も多い。

コース上には、シカの糞や、クマの爪痕などがあり、動物に遭遇する可能性もある。私たちが、コースを歩いているときも、笹藪の中でかなりの速さで移動する比較的大型の動物の影を見た。

コースの途中にあった弘法の水は涸れていたが、一口水は飲むことができた。

こしき岩から山頂に向かうコースは、「危険」の看板あり。
我々は、あえてこのコースを通過したが、十数メートルの岩稜登りと、かなりひどい藪こきを強いられた。

巻き道を通ってきた他の登山客とほとんど時間は変わらなかった。

山頂には避難小屋、休憩用のデッキ、水洗トイレがある。

休憩デッキにて、昼食休憩をとった。

ドウダンツツジの群生地では、満開のベニドウダンを見ることができた。

写真:



キャンプ地に行く前に、夕飯の買い出し。
今日の晩御飯のメニューは???



かいちょ～から、氷ノ山についてと、氷ノ山で遭難した仲間のお話があった。
最初、自分で、短く話すとおっしゃってたのだが結構長かった。(^_^)



ハチ高原スキー場について。ここで、今晚の夕食の山菜採り。



いろんな山菜を教えてもらいながら、各自、スーパーの袋がいっぱいになるくらい山菜をとった。



かいちょ〜も、山ウドをたくさん採ってきてくれた。さすがに、他の人とはけた違いの量！



氷ノ山国際スキー場のキャンプ地にやってきた。手分けして、共同テントを張っていく。



個人用のテントを持ってきた人もたくさん。カラフル！



食事係は、山菜のよりわけなどの作業に入る。



私たちは、氷ノ山で遭難した仲間の慰霊碑のお参りに出発。



さっきまでいたハチ高原が見えていた。



スキー場の一番下から、リフトの降り場まで歩く。20分ぐらい斜面を登った。



リフトだったらすぐなのに、歩くと結構遠い。



リフトの降り場からすぐの斜面の下に、突然ポツと石仏がまつられていた。氷ノ山で遭難した仲間のうち、助けを呼びに行こうとしてこのあたりで力尽きた遭難者の一人の慰霊碑だそう。リフト降り場のほんのすぐそば。さぞや、無念であったことだろうと、胸をしめつけられる思いがこみあげてきた。



石仏の周りには、たくさんのニリンソウが咲いていた。



遭難者の名前が刻まれた慰霊碑の前につく。とても深い谷。雪崩で流されたのだそう。遭難してから、助け出されるまでに、数か月を要したという。



皆で、用意したお花と線香を手向ける。静かな谷に、線香の煙がたなびく。



帰り道も、ニリンソウの大群落。静かな深い森の中だった。



帰ってきたら、宴会が始まっていた。山菜の天ぷらがどんどん揚がってきていた。すでに何人かは、できあがっている？！



揚げたての天ぷらは大人気。あげる端からみんな取っていく。ウドの酢味噌和え、わらびのおひたしも、おいしかった！



ワラビ、コシアブラ、スズコの天ぷら。わさびマヨネーズをつけていただく。美味♪



山菜の天ぷらはあっという間になくなってしまったが、このあとも、自家製カツオのたたき、マグロのさしみ、鳥やエビのてんぷらと、豪華メニューは続く。みんなお酒も進む。



ギター演奏が始まる。



みんな、輪になって歌って踊って…



もう、ノリノリ!



宴会は頂点に……



日が暮れて、あたりも暗くなってきた。



2日目の朝は、6:00 出発。



新緑の中、国際スキー場の朝焼けがきれい。

いろいろあったけど、一日目も終了!



舗装路を2キロほど、親水公園まで戻る。道路わきには、タニウツギがピンクの花を咲かせている。



山藤もきれい。



車道を2キロ以上歩いて、やっと、親水公園登山口についた。



今日は、親水公園口から、山頂をめざし、山頂からは東尾根を降りて、氷ノ山をぐるっと一周するコースをたどる。



登山口にベニドウダンが咲いていた。



ナナカマドもきれい。



登山口から川に沿って進むとすぐ左手に滝が現れる。



川沿いに進む。



斜度はそれほどきつくないが、石がごろごろ。



布滝に到着。



一本の布を流したような滝。



滝の前で休憩するメンバー。



しばらく進むと、慰霊碑とのぞき滝の看板が。谷の下をのぞくと、はるか遠方にちらっと滝が流れているのが見えた。



不思議な木が！



七種類もの木が共生している連樹。めずらしい！



うすピンクのコイワカガミがたくさん咲いていた。



ウラジロヨウラクが咲いていた。これも、つつじの仲間。



ほどなく地蔵堂に到着。



このあたりは、ブナの原生林になっている。



道が崩れて梯子が渡り代になっていた。



梯子のすぐ先に木地屋跡。



やっと、氷ノ山越の峠に到着。



ここは、鳥取県と兵庫県の県境付近。



ユキザサがたくさん咲いていた。



このあたり、ブナの原生林が続く。



チゴユリの群生。



下を向いてかわいい花を咲かせている。



だんだん岩が多くなってきた。



はるか遠くに見えていた山頂避難小屋が、だんだん近くなってきた。もうすこし！



鉢伏山が下に見える。だいが登ってきた。



仙谷口に着いた。ちょっと休憩。



500m 付近から登って、1380m まで登ってきた。



岩場を登っていく。



こしき岩と看板がある。ついでに、「危険」の看板も。



岩の斜面に、きれいなイワカガミ発見。



岩を登る途中からの絶景。



岩を登り切り、ヤブコキしてすぐの木の階段を登りきったところが山頂。一等三角点があった。



氷ノ山山頂のケルン。



休憩の後、東尾根を下る。



神大ヒュッテについた。大勢の人が休んでいる。こっちの尾根のほうが、登ってくる人が多い気がする。



つつじの群生地では、ベニドウダンが満開。



東尾根避難小屋についた。このあたりで、別動隊と出会う。テント場まで、あと1キロ！



やっと、東尾根登山口に到着。

感想／記録

1 日目は山菜採りと、仲間の慰霊。

2 日目に氷ノ山に登る。

親水公園登山口からのコースは健脚向きとあったが、午前6時半ごろに登山口についたときには、かなりの人数の登山者が登り始めていた。雪解け跡の登山道は石がごろごろしていて歩きにくい。

落石に気を付けながら、どんどん高度を上げていく。

それにしても、氷ノ山は避難小屋が多い。雪山登山をする人がよほど多いと見える。

我々の仲間だけでなく、多くの人命がここ「氷ノ山」でなくなっている。

大学時代、よく先輩に「山で死んではいけない！」と言われたことがあった。

この言葉の意味は、当然「死んだらだめ」ということなのだが、私はこう解釈していた。

「死んでもいい」とは、絶対に思わないで、最後まであきらめずに挑み続けろという意味だと・・・

帰りたくても帰れなかった亡き先輩の慰霊碑の前に立ったとき、この言葉を思い出した。

自然と、一緒に山に登ってくれる仲間に、心からの感謝を！！